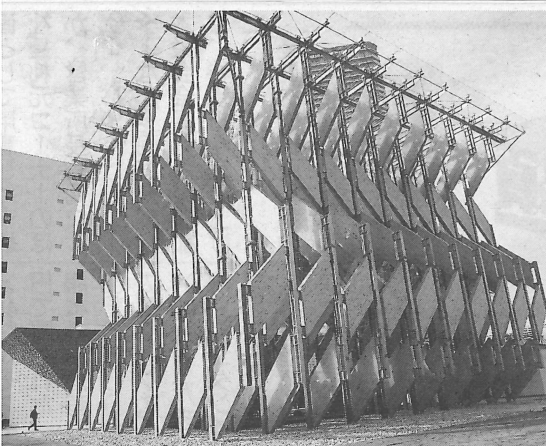


CLTパークHARUMI竣工

オリパラ通じ内外に木の良さアピール

三菱地所（東京都、吉田淳一社長）が東京・晴海で建設を進めてきた「CLT PARK HARUMI」（CLTパークハルミ、旧プロジェクト名「CLT晴海プロジェクト」）が11月29日に竣工した。今月5日に関係者等を集めて披露した。



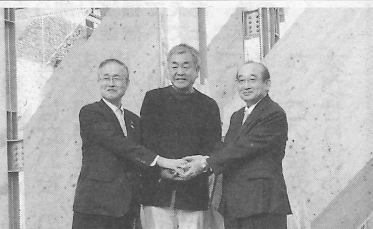
CLTの魅力を内外に発信

同施設は、三菱地所として首都圏で初めてCLTを使った計画で隈研吾建築都市設計事務所がデザインを監修、三菱地所設計が設計・監理を行い、三菱地所ホームが施工した。14日に開業。2020年秋まで1年間、東京・晴海で運用し、CLTの魅力を伝えるシンボルとして国内外にアピールする。

パビリオンには岡山県真庭市産のCLTを680立方メートル（銘建工業、7層210ミ、検）使用。グーグルによるデジタルスキル取得をサポートする施設「グローウイズグー」や「ラーニングセンター」や「プレースホルダー」によるエデュテインメント（教育+エンターテインメント）型アトラクションを活用したコミュニケーションスペース「プレイフォレスト」「ダイレクテッドバイブレースホルダー」などを設けている。

晴海での運用後は部材をリユースし、CLTの生産地、真庭市の国立公園蒜山に移築し、観光・芸術・文化の発信拠点として利用する計画だ。

パビリオン棟は地上1階、高さ約18メートル、造とCLTによる混構造。延べ床面積601・38平方メートル。CLT約



右から、吉田社長、隈氏、太田市長

（建工業）を使用した。鉄骨の柱間に斜めに加工したCLTを梁のようにして、柱間をつなぐ。移設を前提としていることから鉄骨柱接合部とCLTパネルユニット接合部の間はボルト接合し、各パネルユニットはボルトの

付け外しで個別に取り外せる。

屋内展示棟は2階建て、高さ約9メートル。CLT造による木造で、延べ床面積は985・38平方メートル。CLT約445立方メートル、銘建工業・山佐木材）を使用した。

吉田社長は、「オリパラの約1年、晴海で展示し、その後、真庭市に移築する。三菱地所のグループがそれぞれの個性を生かしてワンチームで取り組んだ」と語った。

隈研吾氏は「1年後に真庭市に移築するが真庭は木の聖地のようなところ。移築して再

生することはコンクリートではあり得ない」と、移築して再利用する持続性をアピール。

太田昇真庭市長は「移築後は、真庭で大阪万博の太陽の塔のように永遠に輝いてほしい」と話した。